No.40(平成12年６月)
分類コード　02-09
熊本県農政部

農業研究成果情報

表題	ビニール再被覆時期の前進化による不知火の糖度向上法	機関	農業研究センター 果樹研究所
概要：	不知火の加温栽培において、秋期の降雨が多いと糖度が低くなることから、減酸が順調な場合にはビニールの再被覆時期を従来の 11 月上旬から 10 月上中旬に早め、少水分管理を行うことで増糖効果が期待できる。		

研究のねらい

不知火の加温栽培は、露地栽培に比べると樹勢が良好となり、収量も多く商品化率が高まることから栽培面積は増加の傾向にある。
しかしながら、気象条件によっては糖度が上がりにくく、低糖となる年もみられる。現在の栽培方法は気温が高い時期（７月～ 10 月）にビニールを除去していることから、気象条件に左右されるところも大きい。
そこで、気象条件に左右されないよう秋期のビニール再被覆時期を早める方法を検討し、糖度の向上を図る。

研究の成果

１．ビニール除去期間中の降水量が多いと、糖酸ともに低くなる傾向がある。特に、９月～ 10 月にかけての降水量が多いと、糖度の上昇が遅れ、収穫時の糖度が低くなる。

２．ビニールの再被覆時期を 10 月上中旬に早めて、早くから降雨を遮断して少水分管理を行うと、糖度は上がりやすい。

３．10 月上旬のクエン酸が 1.3 %以上の場合には、少水分管理に切り替える時期を遅らせて減酸を促進する。

普及上の留意点

１．不知火の加温栽培で、１月下旬から２月上旬に加温を開始し、10 月上旬のクエン酸が 1.3 %以下の場合に適用できる。

２．ビニールの再被覆を早く行う場合には、ハウス内温度が上がりやすいため、換気は十分行って温度の上昇を防ぐ必要がある。

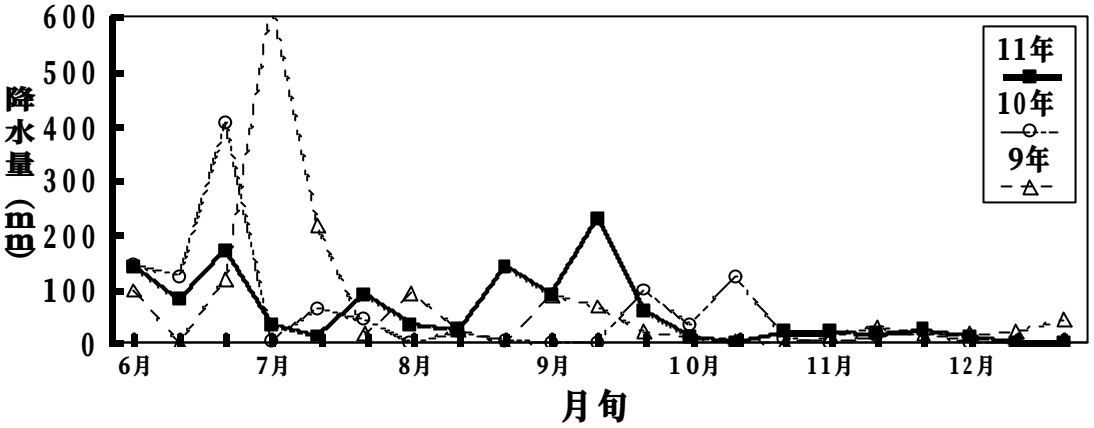

図１　６月～12月の降水量の推移（果樹研究所）

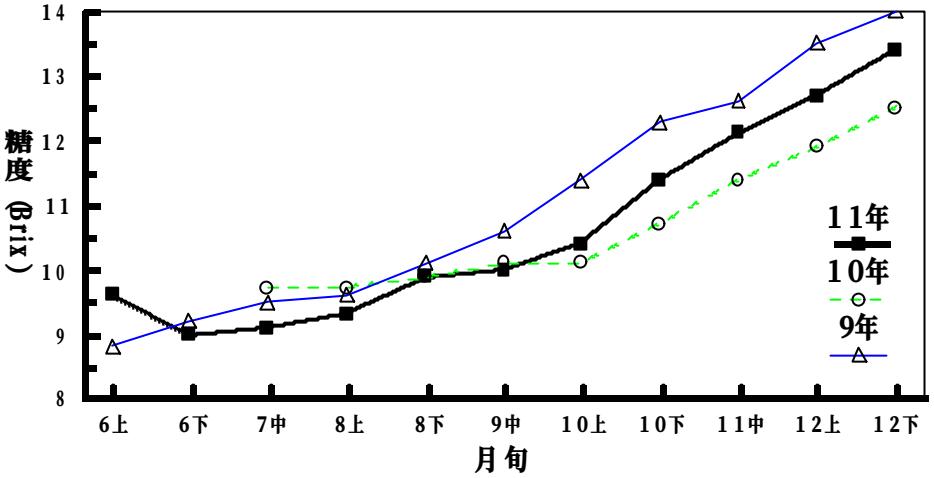

図２　不知火の加温栽培における糖度の推移

注）加温開始日：平成9年1月29日、平成10年1月30日、平成11年2月10日
　　満開日：平成9年3月9日、平成10年3月9日、平成11年3月16日
　　ビニル再被覆日：平成9年10月15日、平成10年10月28日、平成11年10月7日

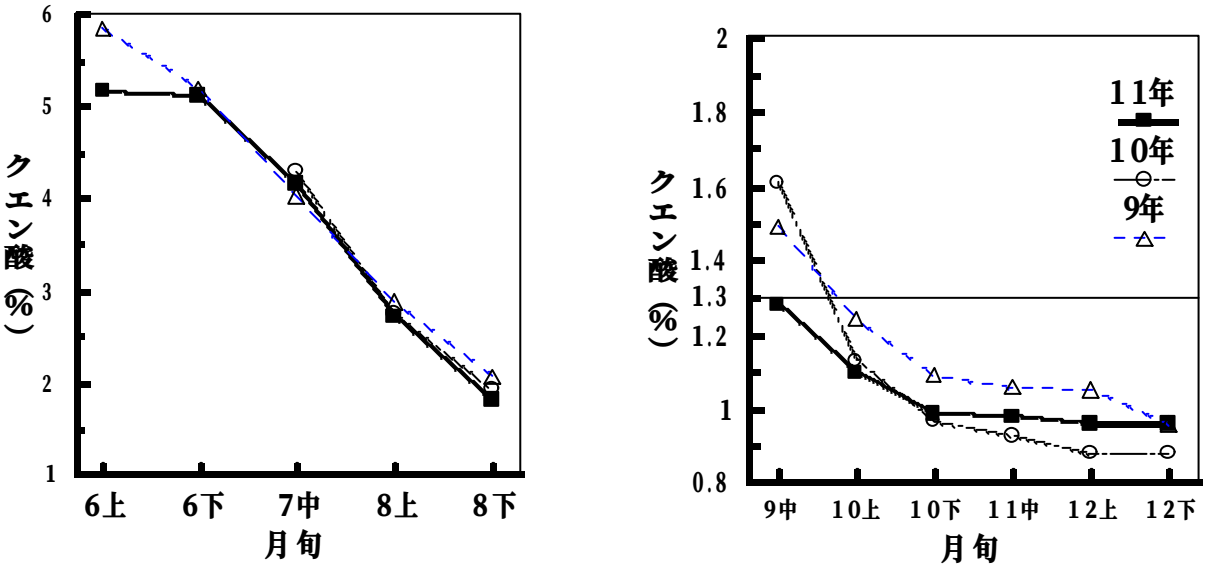

図３　不知火の加温栽培におけるクエン酸の推移